

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	270201718		
法人名	社会福祉法人弘前愛成園		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地 (電話番号)	〒036-8245 青森県弘前市金属町5-30 (電 話) 0172-89-1601		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 2月 2日	評価確定日	平成 20年 3月 26日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	81.06 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弘前愛成会病院、山口歯科医院、城西調剤薬局
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイスサービスに併設されたホームなので、看護師による健康管理や緊急時等の支援体制が充実しているほか入院ベッドを活用しての短期利用も可能であり、利用者のみならず地域の高齢者等にとっても心強い存在である。また、外出を楽しみにしている利用者が多いことや地域との関わりを意識し、地域行事への参加、散歩、買い物、ドライブ、遠足、祭り見物などの楽しみごとの支援を積極的に行うなど、本人の思いを大切にしたいケアを管理者、職員一丸となって提供している。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で提案された研修の工夫という点に関しては、年度当初の研修計画に必要とするテーマを盛り込み、計画的に職員の育成を行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、毎年の自己評価及び外部評価をマンネリ化防止やサービス水準のさらなる引き上げに活用しようと前向きに取り組んでいる。職員会議では、それぞれの職員の意見を建設的な視点で討議し、サービスの質の引き上げに活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では外部評価の結果や取り組み課題等を事業所から報告し、地域からは町内の行事などの情報が寄せられている。会議で出された意見や情報は、サービスの質の引き上げや、利用者の生活の広がりのために活用されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	利用時に十分に時間をとって苦情等の受付について説明しているが、一度の説明では行き届かないことを踏まえ、面会時にさり気なく声がけて、要望や不安に感じている点などの聴取を行っている。また、出された意見、苦情、要望等については、直ちに全職員で話し合っ、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し、総会や納涼祭などの町内行事にも積極的に参加している。事業所からは定期的なホーム便りの配布や、自家菜園で収穫した野菜を保育園に届けるなどし、近隣住民サイドからは町内の子供会、保育園児、高校生などが訪れたり、近所の人々が野菜を持ってくるなどの交流が行われている。認知症ケアなどに関する豊富な知識や実践経験を地域の高齢者等の暮らしに活かす取り組みについては、検討中である。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を一部見直して、全職員で地域密着サービスとして果たすべき役割を反映させた新たな理念を作り上げている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を斉唱したり、常に目につくリビングに掲示するなどして共有を図っている。また、新たな理念は、外出支援などの日々のサービスに具体的に活かされている。		
3	4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入会し、総会や納涼祭などの行事にも積極的に参加している。事業所からは定期的なホーム便りの配布や、自家菜園で収穫した野菜を保育園に届けるなどし、近隣住民サイドからは町内の子供会、保育園児、高校生などが訪れたり、近所の人々が野菜を持ってくるなどの交流が行われている。認知症ケアなどに関する豊富な知識や実践経験を地域の高齢者等の暮らしに活かす取り組みについては、検討中である。	○	地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないかの話し合いのほか、認知症ケアに関する豊富な専門的知識や技術を地域に還元する取り組みを通じて、地域密着サービスの拠点としてさらなる役割を担っていくことに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、毎年の自己評価及び外部評価をマンネリ化防止や、サービス水準のさらなる引き上げに活用しようと前向きに取り組んでいる。職員会議では、それぞれの職員の意見を建設的な視点で討議し、サービスの質の引き上げに活かしている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果や取り組み課題等を事業所から報告し、地域からは町内の行事などの情報が寄せられている。会議で出された意見や情報は、サービスの質の底上げや、利用者の生活の広がりのために活用されている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経済的に困窮しているケースや、困難ケースなどについて事業所から市に出向いて相談したり、市の担当者が来所して対応方法などについて助言するなど連携して課題の解決に対して、積極的に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開いて職員間での理解を深め、必要な人に活用できる体制を整備している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や県の通達などから集めた情報を、内部研修を通じて全職員で共有し、虐待が見過ごされないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の際に丁寧に説明しているが、一度の説明では行き届かないことを踏まえ、利用後も面会時にさりげなく声掛けし、疑問点や不安に感じていることなどについて聴取し、理解・納得を図っている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告は、面会時のほかホーム便りで定期的に行っている。また、健康面に関しては変化があればその都度、預かり金については面会時等に出納簿と領収書を確認して頂いている。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用時に十分に時間をとって苦情の受付について説明しているほか、リビングの片隅にご意見箱を設置したり、面会時に声掛けするなどして意見の引き出しを行っている。また、出された要望等は、直ちに全職員で話し合っ、速やかにサービスの向上につなげている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が崩れないようユニット内での職員の異動は極力避けるようにしている。法人間の職員異動などでやむを得ず異動する時は、異動する職員と新しく来る職員が一緒にかかわるなどして早期に馴染めるように工夫している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて、内部研修を行っているほか、職員の習熟度に応じて外部研修に参加させ、その内容を会議等で報告し、共有している。職員の資格取得に対する意識が高く、有資格者が多い。また、法人としても、職員が資格を取りやすいように多様な支援をしている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加して同業者との交流を図っている。また、認知症ケアの実習生の受け入れ時に意識的に情報交換するなどして交流を深め、得られた情報をケアに活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に管理者が計画作成担当者が出向いて本人と面談し、ホームでの暮らしや雰囲気などを伝えるなどして家族との信頼関係の構築を図り、利用者が安心して利用出来るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側と支援される側という意識は持たず、利用者との会話を一緒に楽しんだり、テレビや新聞のニュースの話題に一喜一憂したりして喜怒哀楽を共にしている。また、職員側から相談するなどして、互いに支えあう関係づくりに留意している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族等から一人ひとりの思いや生活に対する意向が引き出され、記録されている。把握が困難な場合、利用者との自然な会話や表情、仕草などから、思いを汲み取るなどして、利用者本位を実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や、各職員のモニタリング結果等を会議に持ち寄り、それぞれの意見やアイデアを反映しながら、介護計画の作成をしている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しが行われている。また、本人の状態に変化があれば、その都度家族や本人と話し合いをもって、新たな介護計画を作成している。		
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護、医療連携体制による24時間の健康管理、本人や家族の状況に配慮して通院や外出支援など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に通院できるよう送迎や通院介助を行っている。また、通院時に利用中の健康状態などの情報を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の具体的な対応方法や医療、終末期にも対応することについて、文書で明示し、家族に説明しているが、終末期にはどのようなケアを受けられるのか等の具体的な内容は、明示されていない。	○	職員で話し合っている終末期に提供する具体的なケアなどについても文書化し、関係者間の意思統一を図ることに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねない対応について研修会等を通じて職員で確認し合っており、日々の生活支援の場面に活かしている。また、ホーム便りを家族用と地域用とに分けて作成するなど個人情報の取り扱いに、十分配慮している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	在宅時に使っていた嗜好品の持ち込みを許可したり、職員が利用者一人ひとりのペースを把握し、各人のペースを尊重した支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、買出し、献立作りなどの一連の作業を利用者と職員が相談しながら、一緒に行っている。また、職員と一緒に食事しながら、さり気なくサポートしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者と話し合って入浴の開設日を毎日から週4回と明示しているが、体調不良時や希望があれば、曜日や昼夜に関係なく入浴が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習慣として行っていた家事や外食などが継続できるように支援しているほか、日常の会話の中で他にも楽しめるものはないか職員全体で考え、ドライブ、祭り見物などの新たな楽しみごとを見出し、支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望する場所や近くの公園への散歩、買い物、町内の行事や遠足など地域との繋がりを意識し、利用者と相談しながら積極的な外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は禁止行為となる具体的な行為について、研修などを通じて正しく理解している。また、身体拘束をしないための方法について、いろいろな面から全職員で検討されており、身体拘束も行われていない。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について理解し、鍵をかけないケアを実践している。玄関等からの出入りがあれば職員の携帯するPHSに情報が入る仕組みであるが、外出希望を察知して一緒に出かけるなど、利用者の自由な外出を支援するために活用されている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度立ち上げた地域住民による防災協力員等と一緒に日中の火災を想定し、総合訓練を定期的に行っている。また、地震等に備え、施設内に食料や水を備蓄しているが、地震訓練への取り組みは行われていない。	○	夜間を想定した訓練や地震の発生に備えての訓練への取り組みが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量や水分量が把握されている。また、摂取状況や献立表などの資料を、母体施設に持参するなどして、定期的に栄養士の指導を受けている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修会の開催、最新情報の伝達とマニュアルの更新などを通じて、個々の職員の自主的な振り返りを促し、全職員が的確に対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が対面式のため利用者は一日の流れを感じて過ごすことができる。談話スペースがリビングと別のエリアにも設置されているので、他の利用者等に気兼ねなく家族と談笑できる。また、テレビの音量は利用者同士の会話も楽しめるように設定され、職員が所持しているPHSの音量は利用者に心理的圧迫感を与えないようマナーモードに設定するなど、音に対する細やかな配慮がされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室に、馴染みの家具や使い慣れた道具、写真などを思い思いに持ち込んでいる。新たな生活用具を購入する際は、職員が同伴し好みのものを購入している。また、歩行不安定になっても、馴染みの調度品に囲まれた暮らしが続けられるよう、タンスの角などに衝撃緩和クッションを付けるなどの心配りがされている。		

 は、重点項目。